2019
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院

GRADUATE SCHOOL,HOKUSHO UNIVERSITY

2019年度　北翔大学大学院　学事日程

月		火		水		木		金		土		日		備考
4／1		4／2	在学生オリエンテーション	4／3	入学式	4／4	オリエンテーション	4／5	オリエンテーション	4／6		4／7		
4／8	①	4／9	①	4／10	①	4／11	①	4／12	①	4／13		4／14		
4／15	②	4／16	②	4／17	②	4／18	②	4／19	②	4／20		4／21		
4／22	③	4／23	③	4／24	③	4／25	③	4／26	③	4／27		4／28		
4／29	昭和の日	4／30	休日	5／1	祝日	5／2	休日	5／3	憲法記念日	5／4	みどりの日	5／5	こどもの日	教育学科養護教諭コース３年次 養護実習：４／８～４／26
5／6	振替休日④	5／7	④	5／8	④	5／9	④	5／10	④	5／11		5／12		こども学科２年次 教育実習：５／13～５／31
5／13	⑤	5／14	⑤	5／15	⑤	5／16	⑤	5／17	⑤	5／18		5／19		
5／20	⑥	5／21	⑥	5／22	⑥	5／23	⑥	5／24	⑥	5／25		5／26		
5／27	⑦	5／28	⑦	5／29	⑦	5／30	⑦	5／31	⑦	6／1		6／2		
6／3	⑧	6／4	⑧	6／5	⑧	6／6	⑧	6／7	⑧	6／8		6／9		
6／10	⑨	6／11	⑨	6／12	⑨	6／13	⑨	6／14	⑨	6／15		6／16		
6／17	⑩	6／18	⑩	6／19	⑩	6／20	⑩	6／21	⑩	6／22		6／23		健康福祉学科（介護）４年次 訪問介護実習：６／18～６／28
6／24	⑪	6／25	⑪	6／26	⑪	6／27	⑪	6／28	⑪	6／29		6／30		健康福祉学科（介護）２年次 介護基礎実習：６／26～28
7／1	⑫	7／2	⑫	7／3	⑫	7／4	⑫	7／5	⑫	7／6		7／7		教育学科養護教諭コース２年次 看護学臨床実習：７月～９月
7／8	⑬	7／9	⑬	7／10	⑬	7／11	⑬	7／12	⑬	7／13		7／14		
7／15	海の日⑭	7／16	⑭	7／17	⑭	7／18	⑭	7／19	⑭	7／20		7／21		
7／22	⑮	7／23	⑮	7／24	⑮	7／25	⑮	7／26	⑮	7／27		7／28		
7／29	補講・試験日(月)	7／30	補講・試験日(火)	7／31	補講・試験日(水)	8／1	補講・試験日(木)	8／2	補講・試験日(金)	8／3		8／4		こども学科２年次 保育実習（保育所）：８月～９月
8／5		8／6		8／7		8／8		8／9		8／10		8／11	山の日	心理カウンセリング学科４年次 精神保健福祉援助実習：８月～９月
8／12	振替休日	8／13		8／14		8／15		8／16		8／17		8／18		
8／19		8／20		8／21		8／22		8／23		8／24		8／25		教育学科４年次　保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ：８／19～８／31
8／26		8／27		8／28		8／29		8／30		8／31		9／1		教育学科３年次 教育実習Ⅰ（幼・小）： 幼稚園８／19～９／６ 小学校８／19～９／13
9／2		9／3		9／4		9／5	創立記念日	9／6	5／6の振替休日	9／7		9／8		
9／9		9／10		9／11		9／12		9／13		9／14		9／15		健康福祉学科（介護）３年次 介護実習Ⅱ：８／19～９／27
9／16	敬老の日	9／17	7／15の振替休日	9／18		9／19		9／20		9／21		9／22		健康福祉（他）３年次・ 健康福祉（介）４年次 相談援助実習：８月～９月
9／23	秋分の日	9／24		9／25		9／26	オリエンテーション	9／27	大学祭準備	9／28	大学祭	9／29		
9／30	① 前学期学位記授与式	10／1	①	10／2	①	10／3	①	10／4	①	10／5		10／6		
10／7	②	10／8	②	10／9	②	10／10	②	10／11	②	10／12		10／13		
10／14	体育の日	10／15	③	10／16	③	10／17	③	10／18	③	10／19		10／20		こども学科２年次 保育実習（施設）：10月～12月
10／21	③	10／22	祝日	10／23	④	10／24	④	10／25	④	10／26		10／27		
10／28	④	10／29	④	10／30	⑤	10／31	⑤	11／1	⑤	11／2		11／3	文化の日	
11／4	振替休日⑤	11／5	⑤	11／6	⑥	11／7	⑥	11／8	⑥	11／9		11／10		
11／11	⑥	11／12	⑥	11／13	⑦	11／14	⑦	11／15	⑦	11／16		11／17		
11／18	⑦	11／19	⑦	11／20	⑧	11／21	⑧	11／22	⑧	11／23	勤労感謝の日	11／24		
11／25	⑧	11／26	⑧	11／27	⑨	11／28	⑨	11／29	⑨	11／30		12／1		
12／2	⑨	12／3	⑨	12／4	⑩	12／5	⑩	12／6	⑩	12／7		12／8		
12／9	⑩	12／10	⑩	12／11	⑪	12／12	⑪	12／13	⑪	12／14		12／15		
12／16	⑪	12／17	⑪	12／18	⑫	12／19	⑫	12／20	⑫	12／21		12／22		
12／23	⑫	12／24	⑫	12／25		12／26		12／27		12／28		12／29		
12／30		12／31		1／1	元旦	1／2		1／3		1／4		1／5		
1／6	⑬	1／7	⑬	1／8	⑬	1／9	⑬	1／10	⑬	1／11		1／12		
1／13	成人の日	1／14	11／４の振替休日	1／15	⑭	1／16	⑭	1／17	⑭	1／18		1／19		
1／20	⑭	1／21	⑭	1／22	⑮	1／23	⑮	1／24	⑮	1／25		1／26		
1／27	⑮	1／28	⑮	1／29	補講・試験日(水)	1／30	補講・試験日(木)	1／31	補講・試験日(金)	2／1		2／2		心理カウンセリング学科３年次 精神保健福祉援助実習：２月～３月
2／3	補講・試験日(月)	2／4	補講・試験日(火)	2／5		2／6		2／7		2／8		2／9		
2／10		2／11	建国記念の日	2／12		2／13		2／14		2／15		2／16		教育学科３年次 保育実習Ⅰ（保育所）：２／10～２／22
2／17		2／18		2／19		2／20		2／21		2／22		2／23	（天皇誕生日）	健康福祉学科（介護）２年次 介護実習Ⅰ：２／17～３／13
2／24	振替休日	2／25		2／26		2／27		2／28		2／29		3／1		
3／2		3／3		3／4		3／5		3／6		3／7		3／8		教育学科３年次 保育実習Ⅰ（施設）：３／２～３／14
3／9		3／10		3／11		3／12		3／13		3／14		3／15		
3／16		3／17		3／18	学位記授与式	3／19		3／20	春分の日	3／21		3／22		
3／23		3／24		3／25		3／26		3／27		3／28		3／29		
3／30		3／31												

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2019年度に開講される授業科目の概要が記載されています。
授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

・授業のねらい
・到達目標
・授業計画
・準備学習の内容（事前・事後の学習）
・使用するテキスト（教科書）や、参考書
・成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
・質問への対応（連絡先など）
・その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。〇〇発表会、〇〇報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実に起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教 育 課 程 表

人間福祉学専攻　専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数 1年次 前	後	教員名	展開他	免許・資格	ページ
研究指導							
人間福祉特別研究Ⅰ	演習	②		担当教員	集中講義		19
人間福祉特別研究Ⅱ	演習		②	担当教員	集中講義		20

臨床心理学専攻　専門科目

科目名	授業形態	年次・単位数 1年次 前	後	教員名	展開他	免許・資格	ページ
臨床心理学領域							
臨床心理学特論Ⅰ	講義	②		風間雅江 澤聡一		[臨]臨床心理士_必修	21
臨床心理学特論Ⅱ	講義		②	澤聡一 風間雅江		[臨]臨床心理士_必修	22
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	講義	②		澤聡一 飯田昭人		[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	23
臨床心理面接特論Ⅱ	講義		②	新川貴紀		[臨]臨床心理士_必修	24
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2		龍島秀広		[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	25
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	講義	2		武藤福保	集中講義	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	26
心身医学特論	講義		2	大宮司信		[臨]臨床心理士_選必	27
障害者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	講義	2		風間雅江		[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	28
コミュニティ心理学特論	講義	2		小坂守孝	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	29
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義		2	小坂守孝		[臨]公認心理師_必修	30
心の健康教育に関する理論と実践	講義		2	澤聡一		[臨]公認心理師_必修	31
基礎心理学領域							
心理学研究法特論	講義	2		風間雅江 佐藤至英		[臨]臨床心理士_選必	32
生理心理学特論	講義	2		田村卓哉	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	33
発達心理学特論	講義	2		川俣智路		[臨]臨床心理士_選必	34
演習							
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	演習		②	新川貴紀 澤聡一		[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	35
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	②		入江智也 飯田昭人	一部集中講義	[臨]臨床心理士_必修	36

臨床心理学専攻　専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数 1年次 前	年次・単位数 1年次 後	教員名	展開他	免許・資格	ページ
演　習							
心理学特別演習	演習	←4→		小坂守孝 飯田昭人 入江智也 風間雅江 佐藤至英 澤　聡一 新川貴紀 村瀬嘉代子		[臨]臨床心理士_選必	37
実　習							
臨床心理基礎実習	実習	←②→		新川貴紀 飯田昭人 入江智也 風間雅江 小坂守孝 澤　聡一	事前事後指導を含む 一部集中講義	[臨]臨床心理士_必修	38
心理実践実習Ⅰ	実習	←④→		風間雅江 飯田昭人 小坂守孝 佐藤至英 澤　聡一 新川貴紀	事前事後指導を含む 一部集中講義	[臨]公認心理師_必修	39
研究指導							
修士論文指導Ⅰ	演習		②	担当教員	集中講義		40

人間福祉学研究科
臨床心理学専攻
1年次

科目名	臨床心理学特論Ⅰ	授業形態	講義	単位数	2
教員名	風間　雅江、澤　聡一				
授業の目的	ねらい	臨床心理学的アプローチにおける理念、基本的な態度、および専門性について概要を把握し、心理的支援を行う上での思考の進め方や関わりの持ち方について理解を深めることを目的とする。また乳幼児期から高齢期にいたる発達段階ごとに、さらには、さまざまな障害の領域ごとに、心理臨床の実践活動について、基本的な考え方や知識を習得するとともに、臨床心理士および公認心理師等の心理臨床家としての資質を高めることをねらいとする。				
	到達目標	(1)心理臨床に携わる者としての自己のあり方を常に問い直し、より適切な支援的関わりを行うための資質を養う。 (2)個々の状況・状態に合わせた心理的支援のあり方について、客観的かつ共感的に考える力を養う。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】ガイダンス 【計画内容】臨床心理学とは何か、国内外の歴史的背景をふまえて全体像について概観する。(風間雅江) 【準備学習の内容】事前に配付した資料を読んでおく。	A、K
第2回	【テーマ】基礎論(1) 【計画内容】臨床心理学の基本理論について概観する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、K
第3回	【テーマ】基礎論(2) 【計画内容】心理臨床の営みとはどのようなものであるか、基本的な考え方について概観する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H、K
第4回	【テーマ】基礎論(3) 【計画内容】心理職としての資質とは何か、心理臨床の営みを支える支援者側の要素について考察する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H、K
第5回	【テーマ】基礎論(4) 【計画内容】臨床心理学と精神医学の関連性について概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、K
第6回	【テーマ】基礎論(5) 【計画内容】臨床心理学的アプローチの実践において、他職種ないし連携機関との協働について、その重要性と基本的理念について概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、K
第7回	【テーマ】ライフサイクル(1) 【計画内容】乳幼児およびその親のための臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、H、K
第8回	【テーマ】ライフサイクル(2) 【計画内容】児童生徒のための臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、H、K
第9回	【テーマ】ライフサイクル(3) 【計画内容】青年のための臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、H、K
第10回	【テーマ】ライフサイクル(4) 【計画内容】成人のための臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、H、K
第11回	【テーマ】ライフサイクル(5) 【計画内容】高齢者のための臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、K、G
第12回	【テーマ】対象・領域(1) 【計画内容】教育領域における臨床心理学的アプローチについて、現代社会の現状をふまえ、求められる支援のあり方について学ぶ。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、F
第13回	【テーマ】対象・領域(2) 【計画内容】医療領域における臨床心理学的アプローチについて、現代社会の現状をふまえ、求められる支援のあり方について学ぶ。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、F
第14回	【テーマ】対象・領域(3) 【計画内容】福祉領域における臨床心理学的アプローチについて、現代社会の現状をふまえ、求められる支援のあり方について学ぶ。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読み、発表準備を行う。	A、F
第15回	【テーマ】まとめと確認 【計画内容】本講義全体についての総括を行い、臨床心理学の専門性とは何か、臨床心理学的アプローチを行うにあたって何が重要であるのかについて再考する。これまで学んだことを振り返り、不明点の確認、および必要に応じて補足説明を行う。(澤聡一) 【準備学習の内容】本講義全体を通して理解困難だったところや疑問点についてあらかじめ整理しておく。	A、H、G

テキスト	必要に応じて資料を配付します
参考書	適宜紹介します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			70%		30%	
	補足						

質問への対応	各担当教員の初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_必修
その他	提出課題に対して講評を行います。

科目名	臨床心理学特論Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2
教員名	澤　聡一、風間　雅江				
授業の目的 ねらい	臨床心理学の実践アプローチとしての心理アセスメントと心理療法について、専門的な知識を幅広く習得するとともに、心理臨床の実践において求められる人間理解の観点および資質を涵養することを目的とする。特定の理論や技法に限定した見方をするのではなく、心理的援助を必要とする人の生活事象とニーズに応じて、多面的な観点から柔軟な対応ができる心理臨床の実践に繋がる能力を身につけることを目標とする。随時、受講生が調べ発表するという演習形式も取り入れ、主体的に理解を深める。				
授業の目的 到達目標	(1)臨床心理学の手法として、対象者を中心においたアプローチとは何かを、常に念頭におきつつ対応する視点と実践力を習得する。 (2)心理アセスメントおよび代表的な心理療法について、基礎的な知識を習得する。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】ガイダンス:臨床心理学的アプローチの展開 【計画内容】臨床心理学の基盤とすべきプロセスを確認し、科学的視点と専門的援助実践の重要性について概説する。さまざまな心理臨床理論を学ぶことの意義をおさえたうえで、特定の理論に偏らない多面的な観点から柔軟な対応を行う統合的心理臨床の考え方について学ぶ。(風間雅江) 【準備学習の内容】シラバスを読んでおく。	A、H
第2回	【テーマ】心理アセスメント(1) 【計画内容】主にインテーク面接で必要になるアセスメントの視点と技術について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第3回	【テーマ】心理アセスメント(2) 【計画内容】臨床心理面接の過程において必要になるアセスメントの技術と活用の方法について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第4回	【テーマ】心理療法(1):精神分析的アプローチ(1) 【計画内容】フロイトの精神分析学を中心に、転移や抵抗などの精神分析的アプローチの主要概念について学ぶ。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第5回	【テーマ】心理療法(2):精神分析的アプローチ(2) 【計画内容】自我心理学や対象関係論、独立学派など、フロイト以降の精神分析的アプローチの展開について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第6回	【テーマ】心理療法(3):来談者中心療法 【計画内容】ロジャーズの人間観など背景もふくめ、来談者中心療法の基盤となる視点と諸技法について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第7回	【テーマ】心理療法(4):認知行動療法(1) 【計画内容】認知行動療法のうち、主に学習理論に基づく行動的技法について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第8回	【テーマ】心理療法(5):認知行動療法(2) 【計画内容】認知行動療法のうち、主に認知的技法について概説し、臨床実践の方法について学ぶ。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第9回	【テーマ】心理療法(6):家族療法 【計画内容】家族療法の理論的基盤としてのシステム論、歴史的背景、およびさまざまな技法について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第10回	【テーマ】心理療法(7):集団療法 【計画内容】個と集団という視点から心理療法の適用について考え、さまざまな集団療法について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第11回	【テーマ】心理療法(8):イメージ療法 【計画内容】心的イメージを用いた各種の心理療法を概観し、心理療法におけるイメージの適用と禁忌について概説する。(澤聡一) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第12回	【テーマ】心理療法(9):内観療法・森田療法 【計画内容】日本で生まれた内観療法について、その臨床観および具体的アプローチについて概説する。　日本で生まれた森田療法について、その臨床観および具体的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第13回	【テーマ】心理療法(10):自律訓練法 【計画内容】自律訓練法の背景となる理論と具体的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第14回	【テーマ】心理療法(11):マインドフルネス・アプローチ 【計画内容】マインドフルネスとは何か、基盤となる概念や理論をおさえた上で、ストレス低減や認知療法に結び付けた臨床心理学的アプローチについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】課題図書・資料を読んでおく。	A、H
第15回	【テーマ】統合的心理療法 【計画内容】これまで学んだことを総括し、統合的心理臨床の観点から、臨床心理学の今後の発展と課題について議論し、受講者の問題意識を明確にする。(風間雅江) 【準備学習の内容】講義全体を通して学んだことをもとに、個々の臨床心理学的アプローチの理論や技法を実践にどのように活かすべきか、考察をまとめておく。	A、H、G

テキスト	必要に応じて資料を配付します
参考書	講義時に紹介します

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分	40%		30%		30%	
補足			レポート			

質問への対応	各担当教員の初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_必修
その他	担当教員ごとに試験・レポートの講評を行います。

科目名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	授業形態	講義	単位数	2
教員名	澤　聡一、飯田　昭人				
授業の目的 ねらい	心理面接とは、セラピストとクライエントによって構成する専門的かつ特殊な人間関係において、クライエントの建設的な変化を目指す臨床行為である。本講義では、心理臨床の現場において第一歩を踏み出すために必要な心理面接の知識と態度を修得すると共に、それらを基盤とした多様な心理支援について学ぶことを目標とする。				
授業の目的 到達目標	(1)臨床心理面接における基本的知識とルールを理解する。 (2)臨床心理面接を実施するための基本的態度が身につく。 (3)臨床心理面接を基盤とした多様な心理支援について理解を深める。 (4)臨床心理面接の経過を振り返ることができる。 (5)臨床心理面接の要点を第三者に報告できる。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】臨床心理面接概説 【計画内容】臨床心理面接を学ぶためのガイダンスを行います。(澤聡一) 【準備学習の内容】シラバスの内容を熟読しておくこと。	A
第2回	【テーマ】力動論に基づく心理療法の理論と方法 【計画内容】力動論に基づく臨床心理面接の理論と方法について、力動的心理療法の事例等を通して学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「力動的心理療法の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第3回	【テーマ】行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 【計画内容】行動論・認知論に基づく臨床心理面接の理論と実践について、認知行動療法の事例等を通して学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「認知行動療法の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第4回	【テーマ】パーソン・センタード・アプローチに基づく心理療法の理論と方法 【計画内容】パーソン・センタード・アプローチに基づく臨床心理面接の理論と実践について、来談者中心療法の事例等を通して学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「来談者中心療法の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第5回	【テーマ】教育分野における心理支援 【計画内容】教育分野における心理支援の事例等を通して、臨床心理面接を基盤とした多様な心理支援の方法について学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「教育分野の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第6回	【テーマ】保健医療分野における心理支援 【計画内容】保健医療分野における心理支援の事例等を通して、臨床心理面接を基盤とした多様な心理支援の方法について学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「保健医療分野の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第7回	【テーマ】福祉分野における心理支援 【計画内容】福祉分野における心理支援の事例等を通して、臨床心理面接を基盤とした多様な心理支援の方法について学びます。(澤聡一) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「福祉分野の事例」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、H、J
第8回	【テーマ】事例についての学びから臨床心理面接を考える 【計画内容】心理に関する相談・助言・指導等の実践や、支援を要する者の特性や状況に応じた関わりを行うために必要な知識、ルールと基本的態度について、これまでの学びを振り返りながら整理します。(澤聡一) 【準備学習の内容】前回までに配付した資料全てを復習しておくこと。	A、H、L
第9回	【テーマ】治療構造：いわゆる「枠」の意義について 【計画内容】臨床心理面接における枠組の重要性について学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】臨床心理面接における治療構造、枠、制限について事前に調べておく。	A、F
第10回	【テーマ】心理面接過程で生じる諸問題 【計画内容】面接室内外で起こりうる様々な問題についてどのように考えたらよいのかを学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】面接における転移や逆転移、その他、行動化などについて事前に調べておく。	A、F
第11回	【テーマ】面接記録と報告書 【計画内容】面接の概要を第三者にわかりやすく伝えるためのポイントを学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「報告書の書き方」を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、F
第12回	【テーマ】心理臨床現場におけるスタッフとの連携 【計画内容】他職種にとって役に立つ心理職とは何かを考える機会とします。(飯田昭人) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「連携」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、F
第13回	【テーマ】スーパービジョンを受けるということ 【計画内容】心理職として必須である、「自らの実践を振り返ること」について学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「スーパービジョン」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、F
第14回	【テーマ】心理臨床家の倫理について考える 【計画内容】クライエントの福祉に奉仕する立場として遵守すべき倫理的側面について学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】事前に配付予定の「倫理」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、F
第15回	【テーマ】クライエントの特性や状況に応じた支援方法の選択について考える 【計画内容】心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整について学びます。(飯田昭人) 【準備学習の内容】事前配付予定の「クライエントの特性に応じた支援方法」に関する文献を読み、疑問点をまとめておくこと。	A、F

テキスト	講義時に説明します
参考書	鑪幹八郎・名島潤慈編、2000年、『新版　心理臨床家の手引』、誠信書房

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			50%		50%	
補足			レポート			

質問への対応	講義内にて指示します。 E-Mail(澤)：sawat@hokusho-u.ac.jp E-Mail(飯田)：iida@hokusho-u.ac.jp
資格	[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修
その他	担当教員ごとにレポートの講評を行います。

科目名	臨床心理面接特論Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2
教員名	新川　貴紀				

授業の目的	ねらい	心理的援助の基本となる面接の進め方について、講義・演習を交えて学びを深める。前半は、援助的なコミュニケーションの基礎となる部分について、グループワークも交えながら学ぶ。建設的で率直な言葉の使い方や伝え方について参加者全員で議論し、理解を深めることを目指す。後半は、解決構築アプローチの技法と理論について文献・映像資料、ロールプレイなどを通して学習する。この技法の学習を通して、心理面接に共通する哲学についてディスカッションを行う。
	到達目標	(1)より効果的な臨床心理面接を探求し続ける姿勢を身につけることを目標とする。 (2)柔軟な発想を持ち面接することができる。

授業の計画		
	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】心理面接の基本的な考え方を紹介し、15回の授業展開を説明します。 【準備学習の内容】シラバスの内容を熟読しておくこと。	A、N
	第2回	【テーマ】自己開示(1) 【計画内容】自分の考えや感情を他者に話す、ということと、それを他者に聴いてもらうということの大切さや難しさについて考えます。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第3回	【テーマ】自己開示(2) 【計画内容】グループワーク等を実施して、自己開示について演習形式で体験的に考えます。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第4回	【テーマ】焦点づけ(1) 【計画内容】自身の話や他者の話の中で、重要であると思われるものに、話題を焦点づけることの大切さや、そこに伴う大変さなどについて考えます。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第5回	【テーマ】焦点づけ(2) 【計画内容】焦点づけについて、グループワークなどを通して、演習形式で考えます。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第6回	【テーマ】フィードバック(1) 【計画内容】相手の話や様子から自分が感じ考えたことを、いかに建設的に支援的に伝えるか、ということを議論します。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第7回	【テーマ】フィードバック(2) 【計画内容】グループワークを通して、相手への伝え方について考えます。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第8回	【テーマ】支援的コミュニケーションについて 【計画内容】前半部分の振り返りを行い、建設的で率直な伝え方について全体で議論を行います。 【準備学習の内容】配付レジュメの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第9回	【テーマ】問題解決から解決構築へ 【計画内容】問題解決アプローチと解決構築アプローチの相違点について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第10回	【テーマ】解決構築の基本 【計画内容】解決構築の諸段階について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第11回	【テーマ】知らないという技法 【計画内容】解決構築アプローチの基本的面接技法を学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第12回	【テーマ】クライアントの望むものにどう注目するか 【計画内容】クライアントの協力と意欲を促進する方法について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第13回	【テーマ】例外の探求 【計画内容】クライアントの長所と成功体験をもとにした解決構築について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第14回	【テーマ】クライアントへのフィードバックと2回目以降の面接 【計画内容】解決構築アプローチにおけるフィードバックの構成、および2回目以降にクライアントの進歩の発見と増幅する方法について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N
	第15回	【テーマ】後半のまとめ 【計画内容】解決構築過程の理論的な意味について学びます。 【準備学習の内容】テキストの該当箇所を熟読しておくこと。	A、N

テキスト	ピーター・デヤング、インスー・キム・バーグ、2008年、『解決のための面接技法』、金剛出版、4772410392 その他レジュメを配付します
参考書	講義時に説明します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			40%		60%	
	補足			レポート			

質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_必修
その他	課題へのフィードバックは個別に行います。

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	授業形態	講義	単位数	2
教員名	龍島　秀広				
授業の目的 ねらい	犯罪、非行、犯罪被害、離婚などの家事事件といった犯罪、司法分野の事象の実際と現状について知るとともに、それらの事象に対応する制度の概要を理解する。その理解をふまえ、それらの事象への心理学支援の理論を学び、さらにロールプレイなどで公認心理師等の心理職に必要とされる実践的な対応方法・技術を身につけることがねらいである。				
授業の目的 到達目標	(1)犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的な制度の概要を理解する。 (2)司法・犯罪分野の諸問題への心理的支援の理論、および公認心理師等の心理職に必要とされる実践的方法を身につける。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】授業のガイダンス 【計画内容】授業の内容を概説し、到達目標について説明する。また、授業の形式、注意点についても説明する。 【準備学習の内容】シラバスに目を通しておくこと。	A
第2回	【テーマ】近年の非行、犯罪の状況について 【計画内容】非行、犯罪の現状について理解を深める。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、B
第3回	【テーマ】少年事件における法規、制度について 【計画内容】非行少年がどのような処遇を受けるのか基本的な知識を講義と演習で理解する。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、B
第4回	【テーマ】刑事事件の法規や制度について（医療観察制度を含む） 【計画内容】刑事事件の流れと「医療観察制度」の基本的な知識を講義と演習で理解する。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、B
第5回	【テーマ】犯罪被害者支援における法規や制度について 【計画内容】罪被害者支援における法規や制度の基本的な知識を講義と演習で理解する。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、B
第6回	【テーマ】家事紛争事件の法規や制度について 【計画内容】家事紛争事件の法規や制度の基本的な知識を講義と演習で理解する。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、B
第7回	【テーマ】非行の相談への対応　その1 【計画内容】非行の相談への対応の実際を身につけるために、非行の実際について事例などを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	B、J
第8回	【テーマ】非行の相談への対応　その2 【計画内容】非行の相談の基礎をローププレイなどを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、E
第9回	【テーマ】非行の相談への対応　その3 【計画内容】非行の相談の実際をロールプレイなどを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、E
第10回	【テーマ】非行の相談への対応　その4 【計画内容】非行の相談の実際をロールプレイなどを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、E
第11回	【テーマ】非行、犯罪に対応するための関係機関の連携について　その1 【計画内容】ひとつの機関のみで、非行、犯罪に対応するのは困難であり、関係機関で連携する必要がある。その基本について事例などを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、J
第12回	【テーマ】非行、犯罪に対応するための関係機関の連携について　その2 【計画内容】ひとつの機関のみで、非行、犯罪に対応するのは困難であり、関係機関で連携する必要がある。その実際について事例などを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、E
第13回	【テーマ】犯罪被害者への対応　その1 【計画内容】犯罪の被害者およびその関係者への対応の基礎について事例などを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、J
第14回	【テーマ】犯罪被害者への対応　その2 【計画内容】犯罪の被害者およびその関係者への対応ロールプレイなどを通して学ぶ。 【準備学習の内容】事前配付の資料などを熟読してくること。	A、E
第15回	【テーマ】全体のまとめと振り返り 【計画内容】講義全体の振り返りを行う。 【準備学習の内容】講義全体の振り返りをプレゼンする準備をしてくること。	F

テキスト	資料を配付する
参考書	講義時に説明する

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			50%		50%	
補足			レポートほか			

質問への対応	講義時に質問の時間を設けるので、積極的な質問を期待します。
資格	［臨］臨床心理士_選必、公認心理師_必修
その他	

科目名	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	授業形態	講義	単位数	2
教員名	武藤　福保				
授業の目的 ねらい	精神障害・疾患を理解しましょう。 どんな病気があるか知っていますか? 自己流の偏った知識ではないですか? 精神障害の分類を憶えましょう。 医学的に正しい知識を身につけましょう。 保健医療分野に関わる公認心理師および臨床心理士等の心理臨床活動の実践に必要な知識とスキルを習得することを目指します。				
授業の目的 到達目標	(1)精神障害の病名と原因を分類して説明することが出来る。 (2)精神障害の一般的な治療法を理解している。 (3)精神障害への心理療法の適応を正しく理解している。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】講義概論:講義のガイダンス 【計画内容】講義内容の紹介と講義展開などを説明する。 【準備学習の内容】シラバスの内容を熟読しておくこと。	A
第2回	【テーマ】コミニュケーション論① 【計画内容】自己紹介などを通して対人コミュニケーションの基本を学習する。 【準備学習の内容】配付するプリントに示す予習課題に取り組むこと。	B、F
第3回	【テーマ】コミニュケーション論② 【計画内容】グループ・ワーク(課題は当日発表)により精神障害の理解とその分類体系を学習する。 【準備学習の内容】参考図書などにより精神障害の分類について学習しておくこと。	F、H
第4回	【テーマ】病跡学にみる精神障害 【計画内容】著名人の病跡を通して精神障害の現代的位置づけについて考える。 【準備学習の内容】参考図書などにより各種精神障害について学習しておくこと。	A
第5回	【テーマ】精神医学の基礎知識 【計画内容】精神障害の診断方法、検査、薬物療法、非薬物療法などを解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより各種精神障害に関する基礎事項について学習しておくこと。	A
第6回	【テーマ】精神障害の分類 【計画内容】主に古典的分類法を通して各種精神障害の成立過程を理解する。 【準備学習の内容】参考図書などにより各種精神障害の成因について学習しておくこと。	A
第7回	【テーマ】精神障害の各論①:認知症 【計画内容】認知症の分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより認知症について学習しておくこと。	A
第8回	【テーマ】精神障害の各論②:統合失調症 【計画内容】統合失調症の分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより統合失調症について学習しておくこと。	A、F
第9回	【テーマ】精神障害の各論③:感情障害 【計画内容】感情障害の分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより感情障害について学習しておくこと。	A、F
第10回	【テーマ】精神障害の各論④:心因性精神障害 【計画内容】心因性精神障害の分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより心因性精神障害について学習しておくこと。	A、F
第11回	【テーマ】精神障害の各論⑤:人格障害 【計画内容】人格障害の分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより人格障害について学習しておくこと。	A、F
第12回	【テーマ】精神障害の各論⑥:青年期・成人期・老年期の精神障害 【計画内容】各年代ごとに発生しやすい精神障害を解説する。特に青年期に特有の精神障害に関して重点的に解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより青年期・成人期・老年期の精神障害について学習しておくこと。	A
第13回	【テーマ】精神障害の各論⑦:小児期の精神障害 【計画内容】小児期の精神障害は大人の精神障害とは異なっている。小児の人格構造の発達過程を学習したうえで、小児期の精神障害を分類して解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより小児期の精神障害について学習しておくこと。	A、F
第14回	【テーマ】精神障害の各論⑧:てんかん 【計画内容】てんかんは本来は神経疾患であるが、脳の病気であることから精神症状を呈することも多い。そのため、てんかんの分類、診断、検査、治療、予後について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などによりてんかんについて学習しておくこと。	A
第15回	【テーマ】精神保健に関する福祉行政制度と法律 【計画内容】精神保健に関する福祉行政制度と法律について解説する。 【準備学習の内容】参考図書などにより精神保健に関する福祉行政制度と法律について学習しておくこと。	A

テキスト	プリントを使用します
参考書	山下格、2010年、『精神医学ハンドブック　第7版　医学・保健・福祉の基礎知識』、日本評論社、9784535983335

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			60%		40%	
補足			課題の発表		質問を特に評価	

質問への対応	初回講義時に具体的に説明をします。 次のメール・アドレスでも受け付けます。(メールのタイトルに「北翔大学」+「学生番号、氏名」を記載すること) E-Mail:drmutoh406cp@yahoo.co.jp
資格	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修
その他	

科目名	心身医学特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	大宮司　信				

授業の目的	ねらい	心身相関のメカニズムなどの心身医学の基礎理論、代表的な心身症（呼吸器系・循環器系・消化器系など）の症状、診断、治療についての知識を習得し、公認心理師および臨床心理士等の心理職として必要な心身医学・心身症医療の基礎を習得することをねらいとする。
	到達目標	(1)心身医学の位置づけ、心身症の概念、心身相関を理解する。 (2)主な心身症の様態・症状について理解・習得する。 (3)心身症の治療法、特に心理療法に関する知識を習得し、一部は自らも体験する。

授業の計画		
	第1回	【テーマ】講義全体のオリエンテーション（講義の目標・進め方などについて）/心身医学・心身症の概念 【計画内容】講義の進め方の説明。心身医学の定義、心身医学における基本的な考え方について学ぶ。 【準備学習の内容】シラバスをあらかじめよく読んでおくこと。	A
	第2回	【テーマ】心身相関 【計画内容】情動と自律神経ならびにホルモンによる身体調節機能との関係について学ぶ。加えて感情や感覚の気付きが低下するアレキシサイミア（失感情症）と性格傾向との関係について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A
	第3回	【テーマ】消化器系の心身症 【計画内容】過敏性腸症候群、胃・十二指腸潰瘍を中心に消化器系の心身症を学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書読んでおくこと。	A、F
	第4回	【テーマ】パニック障害 【計画内容】パニック障害の臨床像、心身症的側面について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第5回	【テーマ】呼吸器領域の心身症 【計画内容】呼吸器系の疾患のうち、心理社会的要因が関与する気管支喘息について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第6回	【テーマ】その他の心身症 【計画内容】その他の心理社会的要因が関与する症心身症（高血圧、冠動脈疾患、筋緊張性頭痛など）の特徴について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第7回	【テーマ】ターミナルケア 【計画内容】臨死における心身症的側面について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第8回	【テーマ】一般精神療法 【計画内容】ロジャースの非指示的療法を中心に、心身症における精神療法の基礎を学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第9回	【テーマ】精神分析療法 【計画内容】心身症に対する精神分析的な治療法について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第10回	【テーマ】森田療法 【計画内容】森田正馬の神経質・精神交互作用などの概念を学び、「あるがまま」という目標の意味を学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第11回	【テーマ】行動療法・認知行動療法 【計画内容】不安階層表について知り、系統的脱感作法を学ぶ。それを基礎に現代盛んな認知行動療法の基礎につき学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、F
	第12回	【テーマ】自律訓練法 【計画内容】不安・恐怖を対象とする自律訓練法の基礎を学び、実際に実践して、その初歩を習得する。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A、E、F
	第13回	【テーマ】心理臨床と心身医学 【計画内容】心身症概念・症状理解・治療法に関する総括と、心身症に対する心理臨床のあり方について学び、特に臨床心理学領域からの研究論文について学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A
	第14回	【テーマ】心身症領域の諸研究について 【計画内容】内科学から派生し、精神身体医学から心身医学への変遷をふまえながら心身症の捉え方について学び、現時点での心身症研究の動向を学ぶ。 【準備学習の内容】指定された教科書の当該箇所を読んでおくこと。	A
	第15回	【テーマ】小論文の発表・検討 【計画内容】これまでの講義を中心に心身症とその治療についての互いの意見を小論文の発表という形で行う。 【準備学習の内容】あらかじめ配付する小論文集を読んでおく。	A、I

テキスト	井出雅弘・大林正博、『臨床に役立つ心療内科入門』、NCコミュニケーションズ（日中出版）、9784817590046
参考書	初回講義時に説明します

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			40%		60%	
補足			毎回の小レポート			

質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	通常講義に加えて、学生諸君の発表を中心にすすめ、視聴覚教材による学びと、簡単な実習を行います。なお履修生諸君の学部での履修内容等によって、講義内容・教科書等を変える可能性があります。詳細はオリエンテーションにてお話します。

科目名	障害者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	授業形態	講義	単位数	2
教員名	風間　雅江				
授業の目的 ねらい	福祉分野において公認心理師および臨床心理士が実践する心理臨床で必要とされる視座および専門的知識について学ぶ。乳幼児期から高齢期の全ての年齢段階にわたって、心身に何らかの障害をかかえた場合の心理的諸問題を中心に、その基礎的知識(用語、定義、分類、原因、発達と心理的影響)を概説し、障害児・者に対応する際に求められる、心理的支援のあり方について学ぶ。さらに、児童および高齢者への虐待、介護、家族等において、心理に関する支援を要する人への支援についての専門的素養を高めることを目的とする。				
授業の目的 到達目標	(1)障害によって生じる特有の問題と、人間として普遍的な心のはたらきの両方をふまえ、専門知識を習得する。 (2)児童および高齢者の福祉領域での心理的支援について現状を把握し、支援の実際を学ぶ。 (3)生活基盤をみすえた心理的支援の実践について理解する。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】障害の概念 【計画内容】国内外における障害のとらえ方について最近の動向を把握し、障害とは何か、何が問題なのか等について考える。 【準備学習の内容】各自がこれまで障害児・者の心理について学んだことを整理しておくこと。	A、B
第2回	【テーマ】発達と障害 【計画内容】人間の発達の特殊性、発達診断、胎生期以降さまざまな発達段階で生じる可能性のある障害について概説する。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B
第3回	【テーマ】自閉症スペクトラム障害 【計画内容】自閉症スペクトラム障害の診断基準、過去から現在に至るまでのとらえ方の推移、心理的特性、治療教育ならびに心理臨床等について概説し、支援のあり方について考える。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第4回	【テーマ】注意欠如・多動性障害(ADHD) 【計画内容】診断基準、タイプ、症状、心理的特性などについて学び、家庭や学校等での対応や援助について考える。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第5回	【テーマ】コミュニケーション障害 【計画内容】言語発達遅滞、音韻障害、吃音、失語症、音声障害等のコミュニケーションの障害について概説し、その心理的理解と支援について考える。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第6回	【テーマ】高次脳機能障害 【計画内容】脳外傷や脳血管障害等に伴う脳神経の損傷を原因とするさまざまな高次脳機能障害や、神経心理学的な機能障害としての注意障害、易疲労性、記憶障害、遂行機能障害等について概説する。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第7回	【テーマ】聴覚障害・視覚障害 【計画内容】聴覚障害および視覚障害が心理的側面に及ぼす影響、および、心理的支援について考える。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第8回	【テーマ】障害の受容と適応 【計画内容】先天性および後天性、それぞれにおける、障害の受容へのプロセス、障害受容困難なケースへのアプローチ等について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B
第9回	【テーマ】障害と就労支援 【計画内容】さまざまな障害により社会参加に支障をきたす人の就労に影響を与える要因は何か、就労を可能にするうえで何が求められるのか、事例を通して検討する。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B
第10回	【テーマ】児童福祉と心理臨床 【計画内容】子どもと親への心理的支援、子育て支援について、児童福祉の理念や現代日本における支援のシステム、心理臨床のあり方について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B
第11回	【テーマ】虐待と心理臨床 【計画内容】児童虐待の現状、被虐待児への心理的支援、親への支援、世代間伝達等について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B
第12回	【テーマ】高齢者福祉と心理臨床 【計画内容】高齢期に求められる心理的支援のあり方について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第13回	【テーマ】福祉職のメンタルヘルス 【計画内容】児童、高齢者、障害児・者にかかわる専門職への心理的支援について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第14回	【テーマ】認知症の心理臨床 【計画内容】認知症について、病型による分類、基本症状と周辺症状、心理的理解と支援について学ぶ。 【準備学習の内容】資料をあらかじめ読んでおくこと。	A、B、J
第15回	【テーマ】まとめ 【計画内容】講義全体の総括を行う。障害児・者、児童、高齢者、一人一人の生活をみすえた心理的支援について、多面的な観点から考える。 【準備学習の内容】講義全体で学んだことを各自ふりかえり、疑問点等を挙げておくこと。	A、L

テキスト	授業時にプリント資料等を配付します
参考書	中村義行・大石史博、2013年、『障害臨床学ハンドブック　第2版』、ナカニシヤ出版、9784779507991 先崎章、2011年、『精神医学・心理学的対応リハビリテーション』、医歯薬出版、9784263213773 田中新正・古賀精治、2013年、『新訂　障害児・障害者心理学特論』、NHK出版、9784595139963

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分	40%		60%			
補足						

質問への対応	直接研究室来訪(事前にメールでの連絡願います)、あるいは、メールでの質問を受けます。 E-Mail：mkazama@hokusho-u.ac.jp
資格	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修
その他	課題に対して随時講評を行います。

科目名	コミュニティ心理学特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	小坂　守孝				

授業の目的	ねらい	心理臨床の現場においては、面接室でクライエントを待つだけではなく、生活の場に働きかけ、心の健康づくり全般に関わることが要求されることが多い。コミュニティ心理学とは、個人のみならず個人をとりまく様々な環境に働きかけ、人と環境との適合性を最大にするための実践の学である。本講義ではコミュニティ心理学における基本的な概念と主な実践例を取り上げる中で、臨床心理士等の心理職によるコミュニティへの介入方法に関する見識を深めることを目的とする。
	到達目標	(1)コミュニティ心理学の基本的発想について理解を深める。 (2)コミュニティ心理学における諸概念について理解を深める。 (3)コミュニティ心理学における介入方法について理解を深める。 (4)コミュニティ心理学における研究方法について理解を深める。 (5)心理的問題について、対象を個人にとどまらず、集団、コミュニティの枠組で捉える視点を持てるようになる。

授業の計画	第1回	【テーマ】コミュニティ心理学の概念 【計画内容】コミュニティ心理学の歴史背景、定義、理念について学ぶ。 【準備学習の内容】シラバスならびにテキスト序章「コミュニティ心理学とは何か」を精読のこと。	A、F
	第2回	【テーマ】人と環境の適合 【計画内容】コミュニティ心理学における主要概念のひとつである生態学的発想(人と環境の適合、社会的文脈の中の存在としての人間など)について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第1章「こどもと生育環境:人と環境の適合」を精読のこと。	A、F
	第3回	【テーマ】ソーシャルサポート 【計画内容】ストレスフルな状況において精神保健に影響を与えるソーシャルサポートについて、諸研究を概観し、ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートの考え方を念頭においた介入方法について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第2章「地域における子育て支援:ソーシャルサポート」を精読のこと。	A、F
	第4回	【テーマ】コンサルテーション 【計画内容】コミュニティ心理学における主要な介入方法の一つであるコンサルテーションについて、その種類や特徴、実際の進め方について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第3章「教師との心理学の共有化:コンサルテーション」を精読のこと。	A、F
	第5回	【テーマ】ウェルビーイング 【計画内容】コミュニティ心理学の定義そのものにも含まれている概念であるウェルビーイングの考え方、QOLとの関係などについて学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第4章「幸福な老い:ウェルビーイング」を精読のこと。	A、F
	第6回	【テーマ】予防 【計画内容】コミュニティ心理学における介入の基本的概念であるところの予防について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第5章「高齢者のヘルスケア:予防」を精読のこと。	A、F
	第7回	【テーマ】ラベリング 【計画内容】コミュニティ心理学における問題の捉え方に影響を及ぼす概念であるラベリングについて、基本的な考え方といくつかの場面における適用について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第6章「高齢者神話とラベリング」を精読のこと。	A、F
	第8回	【テーマ】エンパワメント 【計画内容】コミュニティにおいて社会的な力を取り戻し自立してゆくプロセスであるエンパワメントの概要や、個人・組織・コミュニティにおける実践について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第7章「障害者の自立:エンパワメント」を精読のこと。	A、F
	第9回	【テーマ】コミュニティ感覚 【計画内容】コミュニティに対して人々が持つ態度であり、コミュニティ形成に関わる概念であるコミュニティ感覚について、その要素や精神保健上の問題との関連を学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第8章「地域社会の受け入れ:コミュニティ感覚」を精読のこと。	A、F
	第10回	【テーマ】セルフヘルプ 【計画内容】コミュニティにおいて共通の問題を抱えた個人や家族による自助と相互援助であるセルフヘルプの諸機能や有効性などについて学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第9章「当事者・家族の会:セルフヘルプ・グループ」を精読のこと。	A、F
	第11回	【テーマ】ストレス・コーピング 【計画内容】心身の安全を脅かす環境や刺激、それに対する心身の諸機能、その対応の結果に関するストレス・コーピングの諸理論とストレスマネジメント介入について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第10章「ストレス社会に暮らす:ストレス・コーピングとマネジメント介入」を精読のこと。	A、F
	第12回	【テーマ】コラボレーション 【計画内容】コミュニティにおける諸問題への多面的・多層的な介入のための異職種間の協力を表す概念であるコラボレーションの定義・メリット・課題等について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第11章「多職種との連携:コラボレーション」を精読のこと。	A、F
	第13回	【テーマ】社会変革 【計画内容】心理社会的諸問題の解決をめざしたコミュニティ変革のアプローチやそれをとりまく諸問題について学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト第12章「現代社会とコミュニティ:社会変革」を精読のこと。	A、F
	第14回	【テーマ】コミュニティ心理学の展望 【計画内容】前回までの内容を踏まえ、あらためてコミュニティ心理学がなすべきこと、援助の在り方などについて学ぶ。 【準備学習の内容】テキスト終章「再び、コミュニティ心理学とは何か」を精読のこと。	A、F
	第15回	【テーマ】コミュニティ心理学における課題 【計画内容】現代社会における諸問題について、特にテキストにて取り上げられていなかった部分を中心に、コミュニティ心理学の立場より取り組むべきものを取り上げてゆく。 【準備学習の内容】前回までの講義内容を復習しておくこと。	A、F

テキスト	植村勝彦、2012年、『現代コミュニティ心理学:理論と展開』、東京大学出版会、4130121073
参考書	植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編、2006年、『よくわかるコミュニティ心理学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』、ミネルヴァ書房 日本コミュニティ心理学会編、2007年、『コミュニティ心理学ハンドブック』、東京大学出版会

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分	50%		50%			
補足						

質問への対応	講義内にて指示します。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	授業形態	講義	単位数	2
教員名	小坂　守孝				
授業の目的 ねらい	産業・労働分野における公認心理師として活動を行うには、働く人を取り巻く環境を理解し、現場の要請に応じて柔軟な形で介入を行うことが求められる。この講義は、産業・労働分野における心の支援に関する基本的な考え方、支援方法、そして主な実践領域について理解することを目的とする。				
授業の目的 到達目標	(1)産業・労働分野への介入に必要とされる基本的理論について説明できる。 (2)産業・労働分野における心理職の役割について説明できる。 (3)産業・労働分野をとりまく主要な心の問題への介入方法について説明できる。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】産業・労働分野における心の支援の概要 【計画内容】産業・労働分野における心の支援に必要となる基本的な考え方、心の支援活動の大枠について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅰ部第1章を読んでおくこと。	A、K
第2回	【テーマ】働く人の現状 【計画内容】職場の現状、働く人のメンタルヘルスの現状、職場におけるメンタルヘルス対策の現状と課題について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅰ部第2章を読んでおくこと。	A、K
第3回	【テーマ】キャリアに関する諸理論 【計画内容】キャリアに関する概念と諸理論、キャリアデザイン、キャリア発達に関する諸問題について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅱ部第1章を読んでおくこと。	A、K
第4回	【テーマ】ストレスに関する諸理論 【計画内容】ストレスの概念、心理学的ストレスモデル、職業性ストレスについて学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅱ部第2章を読んでおくこと。	A、K
第5回	【テーマ】集団・組織に関する諸理論 【計画内容】個人の組織行動、個人をとりまく職場、組織に関する理論について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅱ部第3章を読んでおくこと。	A、K
第6回	【テーマ】産業精神保健における心理職の役割(1) 【計画内容】産業精神保健の基本的な考え方と職場におけるメンタルヘルス活動における心理職の関わり方について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅱ部第5章を読んでおくこと。	A、K
第7回	【テーマ】産業精神保健における心理職の役割(2) 【計画内容】組織におけるメンタルヘルス体制づくり、心の支援と精神医療との連携について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅱ部第6章を読んでおくこと。	A、K
第8回	【テーマ】キャリア発達支援 【計画内容】キャリア発達段階、研修会・カウンセリングによるキャリア発達支援について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第1章を読んでおくこと。	A、K
第9回	【テーマ】うつ・自殺予防 【計画内容】働く人のメンタルヘルス不全の中で代表的なうつ病について、自殺とのつながり、アセスメント、対応方法について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第2章を読んでおくこと。	A、K
第10回	【テーマ】職場復帰支援 【計画内容】働く人のメンタルヘルス不全による休職・復職の制度的側面と、職場復帰における段階ごとの支援について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第3章を読んでおくこと。	A、K
第11回	【テーマ】心理教育 【計画内容】産業・労働分野においてメンタルヘルスケアを推進するための教育研修や情報提供について実践例より学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第4章を読んでおくこと。	A、K
第12回	【テーマ】危機介入 【計画内容】産業・労働分野において労働者が遭遇する心理的危機状態に対する介入方法について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第5章を読んでおくこと。	A、K
第13回	【テーマ】職場のハラスメント問題 【計画内容】ハラスメントの概念、職場で起こりうるハラスメント問題、心理職としての対応方法について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第6章を読んでおくこと。	A、K
第14回	【テーマ】職場内連携 【計画内容】産業・労働分野における心の支援を進めるために必要とされる健康管理部門・労務部門・職場間の連携について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第7章を読んでおくこと。	A、K
第15回	【テーマ】EAP 【計画内容】メンタルヘルス対策を担う事業場外資源としてのEAP(Employee Assistance Program:従業員支援プログラム)の役割と活用の実際について学ぶ。 【準備学習の内容】事前にテキスト第Ⅲ部第8章を読んでおくこと。	A、K

テキスト	金井篤子編、2016年、『産業心理臨床実践:個(人)と職場・組織を支援する』、ナカニシヤ出版、9784779510649
参考書	山口裕幸・金井篤子編、2007年、『よくわかる産業・組織心理学』、ミネルヴァ書房、9784623048717

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			70%		30%	
補足						

質問への対応	主にメールにて受け付けます。E-Mail:kosaka@hokusho-u.ac.jp
資格	[臨]公認心理師_必修
その他	

科目名	心の健康教育に関する理論と実践	授業形態	講義	単位数	2
教員名	澤　聡一				
授業の目的 ねらい	近年、心理に関する特段の問題を抱えていない一般の人々や集団を対象に、心の健康の予防や成長・開発のために行う「心の健康教育」の重要性が高まっている。本講義では、学校や地域、企業等で行われる心の健康教育の理論と実践について学び、自らが実施者となるために必要な基本的な態度と知識、技術を身につけることを目標とする。				
授業の目的 到達目標	(1)心の健康教育に関する基礎的な理論を身につける。 (2)心の健康教育に関する具体的な実践の方法について理解を深める。 (3)目的や対象に応じた心の健康教育を立案し、実施するための基本的な技術と態度を修得する。				

授業の計画		
第1回	【テーマ】心の健康教育とは何か 【計画内容】公認心理師の基本業務として定められている「心の健康教育」について学び、これからの心理援助職に求められる専門家像について議論する。 【準備学習の内容】シラバスを読んでおくこと。	A、H
第2回	【テーマ】心の健康教育に関する基礎理論(1)コミュニティ心理学 【計画内容】コミュニティ心理学における予防と治療の連続性を学び、ネットワークを用いたコミュニティ援助実践の方法について理解を深める。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H
第3回	【テーマ】心の健康教育に関する基礎理論(2)学校心理学 【計画内容】学校教育の現場において近年盛んに行われている様々な実践について学び、教育相談の知見を援用した予防的・開発的支援について理解を深める。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H
第4回	【テーマ】心の健康教育に関する基礎理論(3)基礎心理学と心の健康教育 【計画内容】心の健康教育の実践においては、認知・行動理論や自尊感情、セルフ・コントロールなどの基礎心理学の知見が重要となる。ここではその代表的な概念について学び、心の健康教育の実践への活用を考える。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H
第5回	【テーマ】心の健康教育に関する基礎理論(4)社会性と情動の学習(SEL)とセカンドステップ 【計画内容】自己の捉え方と他者との関わり方を基盤に置くSELは、特定の心理教育プログラムではなく、数多くの心理教育プログラムの総称として用いられる。ここでは、暴力予防のためのセカンドステップの実践から、予防的・開発的支援を一定の共通の枠組みの中で整理することの有用性を学ぶ。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H
第6回	【テーマ】心の健康教育に関する技法(1)ストレス・マネジメント 【計画内容】教育分野や産業・労働分野などで幅広く実践されているストレス・マネジメント技法を実際に体験し、実践のための活用法を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	B、H、K
第7回	【テーマ】心の健康教育に関する技法(2)アンガー・マネジメント 【計画内容】「怒り」の感情を適切に表現できることは、健全な社会生活を営む上で重要視されている。ここではアンガー・マネジメントの基本的技法を実際に体験し、実践のための活用法を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	B、H、K
第8回	【テーマ】心の健康教育に関する技法(3)アサーション・トレーニング 【計画内容】攻撃的にならない自己主張の技術としてのアサーションについて体験的に学びながら、その根底に流れる自分自身も考えの異なる他者も尊重する基本的人権の視点についての理解を深める。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	B、H、K
第9回	【テーマ】心の健康教育に関する技法(4)うつ予防の心理教育 【計画内容】近年益々深刻な社会問題となっているメンタルヘルス問題のなかでも、顕在的・潜在的なニーズが特に高い「うつ」「抑うつ」を予防するための心理教育の手法を学ぶ。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	B、H、K
第10回	【テーマ】心の健康教育に関する技法(5)ピア・サポート 【計画内容】仲間や同僚によるサポート活動を指すピア・サポート活動の実践は、近年教育その他の領域で重視されている。その実践のためのピア・サポート・トレーニングの手法を体験的に学びつつ、互いに支え合えるコミュニティを創造する取り組みについて学ぶ。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	B、H、K
第11回	【テーマ】心の健康教育の実践(1)教育分野における心の健康教育 【計画内容】ストレスマネジメント教育のほか、学校における緊急支援、自殺予防教育、防災教育への応用など、教育分野において心の健康教育が果たす役割は大きい。これらの実践について学び、具体的な場面を想定した心の健康教育の活用を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H、J
第12回	【テーマ】心の健康教育の実践(2)産業・労働分野における心の健康教育 【計画内容】産業・労働分野におけるメンタルヘルスの維持・増進は現代社会における喫緊の課題の一つであり、ストレスマネジメントやキャリア教育等と関連した心の健康教育の実践が重要視されている。これらの実践について学び、具体的な場面を想定した心の健康教育の活用を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H、J
第13回	【テーマ】心の健康教育の実践(3)保健医療分野における心の健康教育 【計画内容】患者と家族への心理教育、種々のグループアプローチの活用など、保健医療分野における心の健康教育の実践の機会は多い。これらの実践について学び、具体的な場面を想定した心の健康教育の活用を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H、J
第14回	【テーマ】心の健康教育の実践(4)福祉分野における心の健康教育 【計画内容】地域における子育て支援や、障害児・者とその家族への支援、ひきこもり・高齢者への支援等、福祉分野では他職種と連携した心の健康教育の実践が盛んに行われている。これらの実践について学び、具体的な場面を想定した心の健康教育の活用を検討する。 【準備学習の内容】配付資料を読み、課題に取り組むこと。	A、H、J
第15回	【テーマ】まとめと振り返り 【計画内容】ここまでの心の健康教育に関する理論と実践を振り返り、受講生自身が実施者となる実践についてのプレゼンテーションを行い、具体的な場面を想定しながら検討する。 【準備学習の内容】これまでの配付資料と授業内容を振り返り、実践プログラムを検討すること。	A、F、L

テキスト	講義時に説明する
参考書	増田健太郎・小川康弘、2015年、『教師・SCのための心理教育素材集』、遠見書房、9784904536940 石隈利紀・熊谷恵子・田中輝美・菅野和恵、2016年、『ライフスキルを高める心理教育』、金子書房、9784760838202 山中寛、2013年、『ストレスマネジメントと臨床心理学』、金剛出版、9784772413350

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			50%		50%	
補足			プレゼンおよびレポート			

質問への対応	研究室への来室またはメール等で随時受け付けます。E-Mail：sawat@hokusho-u.ac.jp
資格	[臨]公認心理師_必修
その他	プレゼンテーション内容およびレポートについての講評を行います。

科目名	心理学研究法特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	風間　雅江、佐藤　至英				

授業の目的	ねらい	実験心理学的研究手法で得られた理論と知見が心理臨床の手法に応用され、また一方で、心理臨床の実践的アプローチで見出された問題や仮説を体系的・理論的に解明するために基礎心理学の研究が必要となっており、心理学の領域では臨床心理学と基礎心理学は相補的なところが大きい。臨床心理学的研究および心理臨床の実践の双方において、実証的科学的研究方法の修得およびそれに基づく観点は必要不可欠である。このことを理解したうえで、量的研究手法、質的研究手法をはじめとしたさまざまな心理学の研究法について概説する。
	到達目標	(1)心理学の研究として必要な要件を確認する。 (2)心理臨床の実践において必要な科学的視点と実証的研究手法を修得する。 (3)さまざまな研究手法について修得した知識を、独自の研究計画の立案に応用できるようにする。 (4)研究における倫理的配慮の重要性を理解する。

授業の計画		
	第1回	【テーマ】心理学の研究とは何か 【計画内容】自然科学的研究法と対比しながら、心の働きを研究する基礎的な考え方について概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第1章をあらかじめ熟読しておくこと。	A、K
	第2回	【テーマ】量的研究法(1) 【計画内容】量的研究におけるデータ収集の方法、およびその分析方法について概説する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第3章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第3回	【テーマ】量的研究法(2) 【計画内容】母集団と標本との関係について、統計的推測および検定の側面から考察する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第3章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第4回	【テーマ】量的研究法(3) 【計画内容】ノンパラメトリックな分析方法について、主に相関分析および回帰分析を取り上げ考察する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第3章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第5回	【テーマ】量的研究法(4) 【計画内容】実験・調査のデザインと分析方法について、分散分析を中心として考察する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第3章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第6回	【テーマ】量的研究法(5) 【計画内容】多変量を扱う分析方法について、因子分析を中心として考察する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第3章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第7回	【テーマ】実験の論理と方法(1) 【計画内容】心理学における実験とは何か、変数およびその統制の意味等について概説する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第4章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第8回	【テーマ】実験の論理と方法(2) 【計画内容】完全無作為1要因デザインとは何か、平均の比較、分散分析について概説する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第4章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第9回	【テーマ】実験の論理と方法(3) 【計画内容】対応のある1要因デザインおよび2要因デザインの分散分析について概説する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】テキストの第4章の該当箇所と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、L
	第10回	【テーマ】準実験と単一事例実験 【計画内容】準実験における内的妥当性、事前事後テストデザインの基本的考え方、単一事例実験(ABAデザイン、多重ベースラインデザイン)について概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第5章と配付資料をもとに、課題に取り組むこと。	A、B
	第11回	【テーマ】教育・発達における実践研究 【計画内容】教育・発達に関する実践研究の方法および留意すべき問題点について考察する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第6章をあらかじめ熟読しておくこと。	A、K
	第12回	【テーマ】質的研究法(1) 【計画内容】質的研究のさまざまな手法、および質的研究におけるデータの取り扱いについて概説する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第2章の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。	A、K
	第13回	【テーマ】質的研究法(2) 【計画内容】質的研究における研究計画と分析の特徴について考察する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第2章の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。	A、B
	第14回	【テーマ】臨床における実践研究 【計画内容】心理臨床における実践研究の方法及び留意すべき問題点について考察する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第7章をあらかじめ熟読しておくこと。	A、J
	第15回	【テーマ】倫理的問題と研究の展開 【計画内容】心理臨床の実践者として研究を展開する上での倫理的諸問題とその対応について考察する。(風間雅江) 【準備学習の内容】テキストの第8章をあらかじめ熟読しておくこと。	A、G、H

テキスト	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦、2001年、『心理学研究法入門-調査・実験から実践まで』、東京大学出版会、4130120352
参考書	矢守克也、2010年、『アクションリサーチ　実践する人間科学』、新曜社、9784788512030 鈴木裕久、2006年、『臨床心理研究のための質的方法概説』、創風社、4883521117 他にも必要に応じて講義で紹介します

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			70%		30%	
補足						

質問への対応	各担当教員の初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	提出課題に対して講評を行います。

科目名	生理心理学特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	田村　卓哉				

授業の目的	ねらい	生理心理学は、精神と身体におけるさまざまなプロセス間の関係理解を目指す諸研究の総称であり、基礎的な脳・神経科学から環境・経済・臨床などの応用心理学的な領域まで、非常に幅広い研究関心を持っています。特に、近年は脳の活動を計測・可視化する技術が飛躍的に向上したため、急速に研究が拡大・進展している領域でもあります。これらの諸研究の中から、いくつかのトピックを取り上げ、脳と心の関係をあらためて考えることを通して、受講者と共に問題関心を広げ、各自の研究の進展に寄与することを目的とします。
	到達目標	(1)生理心理学の基本的な問題関心と研究領域を理解する。 (2)脳・神経系の基本的な構造と機能を理解する。 (3)知覚・記憶・学習等、基礎的な心理機能と脳の関係を理解する。 (4)意識と脳活動の関係について、考察を深める。 (5)臨床領域と生理心理学の関係について、理解を深める。

授業の計画			
	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】講義の目標・概要・展開予定について説明をした上で、運営方法について、受講者と相談します。各自の研究関心と生理心理学との接点を考えてみる。 【準備学習の内容】ご自身の研究関心について、簡単に紹介する準備をして来て下さい。	A、B
	第2回	【テーマ】生理心理学の基礎(1) 【計画内容】心理学の歴史において生理心理学が果たしてきた役割。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A
	第3回	【テーマ】生理心理学の基礎(2) 【計画内容】生理心理学の様々な研究領域について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A
	第4回	【テーマ】生理心理学の基礎(3) 【計画内容】生理心理学で用いる様々な計測技術について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A
	第5回	【テーマ】脳と意識(1) 【計画内容】意識水準・睡眠―覚醒について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A
	第6回	【テーマ】脳と意識(2) 【計画内容】睡眠障害・睡眠に関わる労働問題について。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A
	第7回	【テーマ】感覚・知覚の基礎機構(1) 【計画内容】視覚系の基本構造と感覚生理学の基礎。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、C
	第8回	【テーマ】感覚・知覚の基礎機構(2) 【計画内容】高次知覚と視覚失認。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、C
	第9回	【テーマ】注意の機構と機能 【計画内容】事象関連電位と注意。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第10回	【テーマ】記憶と脳 【計画内容】記憶を担う脳内機構と記憶障害。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第11回	【テーマ】ストレスと脳 【計画内容】心臓血管系を中心としたストレス研究。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第12回	【テーマ】生理心理学の応用分野(1) 【計画内容】虚偽検出・ヴィジランス・作業負荷　。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第13回	【テーマ】生理心理学の応用分野(2) 【計画内容】精神疾患と脳。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第14回	【テーマ】生理心理学の応用分野(3) 【計画内容】発達障害と脳。 【準備学習の内容】事前配付資料に目を通して来て下さい。	A、B
	第15回	【テーマ】まとめと振り返り 【計画内容】脳と心の関係に関する総合討論(個々の研究関心と関わらせて)。 【準備学習の内容】発表の準備をして来て下さい。	A、B

テキスト	受講者と相談の上、必要に応じて使用します。
参考書	J.L. アンドレアッシ、2012年、『心理生理学』、北大路書房、9784762827693 村上郁也、2010年、『イラストレクチャー認知神経科学』、オーム社、9784274208225 E.R. カンデル、2014年、『カンデル　神経科学』、メディカル・サイエンス・インターナショナル、9784895927710

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			50%		50%	
補足						

質問への対応	メールでの問い合わせ等、開講時に指示します。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	

科目名	発達心理学特論	授業形態	講義	単位数	2
教員名	川俣　智路				

授業の目的	ねらい	発達とは何か、学習とは何かということは対人援助職に関わる際には避けては通れない問題です。すでに様々な機会にこうした点について学んできたことと思います。では改めて、発達する、学習するとはどういうことでしょうか?前にできなかったことができるようになることでしょうか?新たな知識を得ることでしょうか?本講義では、発達とは何かということについて、様々な角度から検討して、対人援助職に必要な「発達観」を各々が持てるようになることを目的とします。
	到達目標	(1)発達・学習とはどういう現象か、その理論的枠組みを例を挙げながら説明することができる。 (2)発達・学習を援助する際の理論的枠組みを説明することができる。 (3)受講生が経験した事例や、架空の事例について、発達・学習支援の方法を提唱できる。

授業の計画		
	第1回	【テーマ】ガイダンス:発達とは? 【計画内容】これからの講義の進め方、内容について説明する。発達・学習に関するワークを実施する。 【準備学習の内容】これまで学習してきた発達心理学、学習心理学の内容をふり返ってくる。	A、F、H
	第2回	【テーマ】発達とは何か:個人単位の発達・学習を越えて 【計画内容】発達・学習を教育や社会・文化との関わりで検討してみる。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第3回	【テーマ】発達とは何か:路上の算数から学ぶ 【計画内容】ビデオ「路上の算数」の事例を通じて、発達・学習についての概念について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第4回	【テーマ】「発達理論」に関わる論争(1) 【計画内容】「視覚的断崖」や「ハノイの塔」の研究を通して発達理論をめぐる論争について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第5回	【テーマ】「発達理論」に関わる論争(2) 【計画内容】「心の理論課題」や「ポポ人形研究」を通して発達理論をめぐる論争について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第6回	【テーマ】発達の「偏り」とは:発達障害についての再検討(1) 【計画内容】発達障害について、その定義や支援について再検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、H
	第7回	【テーマ】発達の「偏り」とは:発達障害についての再検討(2) 【計画内容】発達障害について、その定義や支援について再検討する。 【準備学習の内容】前の週の議論を踏まえて、適切な支援方法を考えてくる。	A、F、H
	第8回	【テーマ】発達支援は何を支えるのか:学習場面の検討(1) 【計画内容】教室での学習場面の支援事例を通して、発達支援の方法について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第9回	【テーマ】発達支援は何を支えるのか:学習場面の検討(2) 【計画内容】教室での学習場面の支援事例を通して、発達支援の方法について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第10回	【テーマ】発達支援は何を支えるのか:新たな学習支援の検討 【計画内容】これまでの発達・学習支援の検討を踏まえて、あらたな枠組みを学ぶ。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	B、A、H
	第11回	【テーマ】語られる発達:ナラティブとはなにか(1) 【計画内容】発達支援の場面におけるナラティブの分析を通して、発達について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第12回	【テーマ】語られる発達:ナラティブとはなにか(2) 【計画内容】発達支援の場面におけるナラティブの分析を通して、発達について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第13回	【テーマ】語られる発達:ナラティブとはなにか(3) 【計画内容】無知の姿勢の概念について学び、臨床的応用について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、F、H
	第14回	【テーマ】心理的支援は人を成長させるか:ナラティブプラクティスの実際 【計画内容】実際の心理療法場面の事例を通じて、ナラティブによる実践について学ぶ。 【準備学習の内容】事前に提示された資料について目を通し、自分の考えをまとめてくる。	A、J
	第15回	【テーマ】『発達心理学辞典』を作成する:最終ワークとして学んだ内容をアウトプットしよう 【計画内容】講義内で取り扱った概念について、辞典の項目の形式でまとめ報告する。 【準備学習の内容】これまでの講義内容についてふりかえってくること。	B、F、H

テキスト	プリントを使用するため指定しない
参考書	アラン・M・スレーター他著　加藤弘通、川田学、伊藤崇監訳、2017年、『発達心理学・再入門　ブレークスルーを生んだ14の研究』、新曜社、9784788515215 トレイシー・E・ホール他著　バーンズ亀山静子訳、2018年、『UDL　学びのユニバーサルデザイン　クラス全員の学びを変える授業アプローチ』、東洋館出版社、9784491035086 J・ウィンスレイド他著　小森康永訳、2001年、『新しいスクールカウンセリング　学校におけるナラティヴ・アプローチ』、金剛出版、4772406867

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			85%		15%	
補足			3, 5, 7, 10, 13, 15回		グループワークへの貢献度	

質問への対応	講師に対する質問などは直接か、メール(E-Mail:kawamata.tomomichi@s.hokkyodai.ac.jp)にてお願いします。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	成績評価は第3回、5回、7回、10回、13回のミニレポート(12%×5)、第15回のまとめワーク(25%)、毎回の講義内のグループワークや議論への貢献度(1%×15回)で判断します。資料の探し方、ディスカッション、議論への参加の方法、等について疑問や不安がある場合には適宜サポートしますので、その都度教員までお尋ね下さい。 この授業では発達や学習の新たな理論や事例について体験的にワークなどを通して学びます。その方法などについては授業中に教員から教示しますので、事前課題を実施してくる以外は特に予備知識は必要ありません。 様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業までに教員に相談して下さい。 教員についての詳細なプロフィール、授業の方針、人柄などを知りたい場合には北海道教育大学の教員情報のウェブサイトをご覧下さい。

科目名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	授業形態	演習	単位数	2
教員名	新川　貴紀、澤　聡一				

授業の目的	ねらい	心理的アセスメント（psychological assessment）の概念を包括的に理解した上で公認心理師及び臨床心理士等の心理職の実践における心理的アセスメントの意義及び理論と方法について学ぶ。また、その中でも主たるアプローチのひとつである心理検査について学ぶ。心理検査によるアセスメントでは、クライエントを疾患という視点からだけでなく統合的・人格的把握が出来ることが必要である。各講義では、投影法・知能検査各種について、個々の実施方法および解釈の方法を習得する。さらに実際的な技法取得のために、主体的機能を持つ検査について重点的に訓練を行う。これらの検査を中心にクライエントに即応した検査バッテリーを組める視点を養うことが課題である。また、心理査定の報告書については、クライエントの多面的理解と総合的考察を目標として、実際に多数のレポートを作成し検討し合うことを予定している。これらを通して、心理に関する相談、助言、指導等への心理的アセスメントの応用を目指す。
	到達目標	(1)臨床心理学における心理アセスメントの理念を理解できる。 (2)種々の心理検査について手順通りに実施できる。 (3)実施した心理検査の解釈ができ、かつ報告書を作成できる。

授業の計画	第1回	【テーマ】心理的アセスメントについて考える 【計画内容】本講義の意義、目的、受講する上での留意点などについて説明し、心理的アセスメントに関する理論と方法、意義について解説する。そして、なぜ、心理的アセスメントという行為が必要なのか、人が人をアセスメントするということはどういうことかについて考える。（澤聡一） 【準備学習の内容】心理的アセスメントの意義について考え、疑問点をまとめておく。	A、B、H
	第2回	【テーマ】WISC-Ⅳについて(1) 【計画内容】第2回・第3回講義の2回にわたり、児童向けの知能検査法として、もっとも用いられるWISC-Ⅳの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストに関する基礎的スキルの習得を目指す。（澤聡一） 【準備学習の内容】WISC-Ⅳの概略/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第3回	【テーマ】WISC-Ⅳについて(2) 【計画内容】第2回・第3回講義の2回にわたり、児童向けの知能検査法として、もっとも用いられるWISC-Ⅳの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストに関する基礎的スキルの習得を目指す。（澤聡一） 【準備学習の内容】WISC-Ⅳの概略/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第4回	【テーマ】WAIS-ⅢおよびⅣについて(1) 【計画内容】第4回・第5回講義の2回にわたり、成人向けの知能検査法として、もっとも用いられるWAIS-ⅢおよびⅣの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストに関する基礎的スキルの習得を目指す。（澤聡一） 【準備学習の内容】WAIS-ⅢおよびⅣの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第5回	【テーマ】WAIS-ⅢおよびⅣについて(2) 【計画内容】第4回・第5回講義の2回にわたり、成人向けの知能検査法として、もっとも用いられるWAIS-ⅢおよびⅣの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストに関する基礎的スキルの習得を目指す。（澤聡一） 【準備学習の内容】WAIS-ⅢおよびⅣの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第6回	【テーマ】田中ビネー式知能検査について(1) 【計画内容】第6回・第7回講義の2回にわたり、田中ビネー式の概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、児童向けの知能検査法として、WISCとともにもっとも用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】田中ビネー式知能検査の概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第7回	【テーマ】田中ビネー式知能検査について(2) 【計画内容】第6回・第7回講義の2回にわたり、田中ビネー式の概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、児童向けの知能検査法として、WISCとともにもっとも用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】田中ビネー式知能検査の概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第8回	【テーマ】新版K式発達検査について(1) 【計画内容】第8回・第9回講義の2回にわたり、新版K式発達検査の概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、乳幼児および児童向けの発達検査法として、もっとも用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】新版K式発達検査の概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第9回	【テーマ】新版K式発達検査について(2) 【計画内容】第8回・第9回講義の2回にわたり、新版K式発達検査の概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、乳幼児および児童向けの発達検査法として、もっとも用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】新版K式発達検査の概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第10回	【テーマ】K-ABⅡについて(1) 【計画内容】第10回・第11回講義の2回にわたり、K-ABⅡの概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、発達障害児の認知機能検査法として、よく用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】K-ABⅡの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第11回	【テーマ】K-ABⅡについて(2) 【計画内容】第10回・第11回講義の2回にわたり、K-ABⅡの概説/施行法/実施/結果処理について学ぶ。特に、発達障害児の認知機能検査法として、よく用いられる本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】K-ABⅡの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第12回	【テーマ】PFスタディについて 【計画内容】PFスタディの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】PFスタディの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第13回	【テーマ】SCT（文章完成法）について 【計画内容】SCTの概説/施行法/実施/結果処理について学び、本テストの基礎を習得することを目指す。（新川貴紀） 【準備学習の内容】SCTの概説/施行法/実施/結果処理について熟読し、疑問点をまとめておく。	B、H
	第14回	【テーマ】テストバッテリーについて 【計画内容】前学期の他の演習・実習科目でに行った心理検査と本講義で行った心理検査など使い、テストバッテリーの組み方について考える。（新川貴紀） 【準備学習の内容】テストバッテリーを組むことの意義を考えておく。	A、B、H
	第15回	【テーマ】まとめと振り返り 【計画内容】これまで行ってきた心理査定について総括する。学んできた心理検査を正しく適用するために、検査者（テスター）がどういうことを考えていくべきかについて討論すると共に、心理に関する相談、助言、指導等への心理的アセスメントの応用を考える。（新川貴紀） 【準備学習の内容】これまでの講義で生じた疑問点についてまとめておく。	A、B、H

テキスト	講義時に適宜指示します
参考書	講義時に適宜指示します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足						

質問への対応	初回講義時に指示します
資格	［臨］臨床心理士_必修、公認心理師_必修
その他	

科目名	臨床心理査定演習Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2
教員名	入江　智也、飯田　昭人				

授業の目的	ねらい	心理査定(psychological assessment)の概念を包括的に理解した上で、その中でも主たるアプローチのひとつである心理検査について学ぶ。心理検査による査定では、クライエントを疾患という視点からだけでなく統合的・人格的把握が出来ることが必要である。各講義では、投影法と質問紙法について、個々の実施方法および解釈の方法を習得する。さらに実際的な技法取得のために、主体的機能を持つ検査について重点的に訓練を行う。これらの検査を中心にクライエントに即応した検査バッテリーを組める視点を養うことが課題である。また、心理査定の報告書については、クライエントの多面的理解と総合的考察を目標として、実際に多数のレポートを作成し検討し合うことを予定している。(オムニバス方式) (飯田担当分)主に幼児・児童から青年期を対象に用いられる性格検査について実際に受講者自身が施行しながら学んでいただく。具体的には、MMPI、YG性格検査、TEG-Ⅱ(東大式エゴグラム検査第2版)、内田クレペリン精神作業検査、描画法(バウムテスト、HTP、風景構成法、スクィグル)の施行及びその解釈。また、報告書の書き方やテストバッテリーについても触れていく。 (入江担当分)ロールシャッハテストを施行できるようになるための理論的および実践的学習を行っていく。
	到達目標	(1)臨床心理学における査定の理念を理解できる。 (2)種々の心理検査について手順通りに実施できる。 (3)実施した心理検査の解釈ができ、かつ報告書を作成できる。

授業の計画	第1回	【テーマ】MMPIについて 【計画内容】MMPIに関する意義、目的について説明をする。その後、実際に実施をし、検査結果の解釈、報告書への書き方について学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】MMPIについて事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第2回	【テーマ】YG性格検査について 【計画内容】YG性格検査に関する意義、目的について説明をする。その後、実際に実施をし、検査結果の解釈、報告書への書き方について学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】YG性格検査について事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第3回	【テーマ】TEG-Ⅱについて 【計画内容】TEG-Ⅱに関する意義、目的について説明をする。その後、実際に実施をし、検査結果の解釈、報告書への書き方について学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】TEG-Ⅱについて事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第4回	【テーマ】内田クレペリン精神作業検査について 【計画内容】内田クレペリン精神作業検査に関する意義、目的について説明をする。その後、実際に実施をし、検査結果を分析する過程まで学び、実施した内田クレペリン精神作業検査の解釈から、どういう人物像であるかを推定するための方法、そして検査結果を報告書にまとめることについて学んでいく。(飯田昭人) 【準備学習の内容】内田クレペリン精神作業検査について事前に調べ、その意義をまとめておく。	B、H
	第5回	【テーマ】描画法について 【計画内容】描画法の中でも、バウムテストとHTPテスト、風景構成法、スクィグルを取り上げ、それらに関する意義、目的について説明をする。その後、実際に実施をし、検査結果の解釈、報告書への書き方について学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】バウムテスト、HTP、風景構成法、スクィグルについて事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第6回	【テーマ】テストバッテリーについて 【計画内容】これまで行ってきた質問紙法、作業検査法、描画法などを組み合わせて、総合的に解釈するテストバッテリーのやり方や意義、留意点について学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】テストバッテリーについて事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第7回	【テーマ】アウトプットとしての報告書の書き方 【計画内容】これまで行ってきた質問紙法、作業検査法、描画法などをどう報告書にまとめるのか、また総合所見についてどう記載していくのかについて学ぶ。(飯田昭人) 【準備学習の内容】報告書の書き方について事前に調べ、その意義についてまとめておく。	B、H
	第8回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(1) 【計画内容】ロールシャッハテストの歴史的背景およびその理論について概観する。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H
	第9回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(2) 【計画内容】主に包括システムによるロールシャッハテストの実施方法を学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H
	第10回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(3) 【計画内容】主に包括システムによるロールシャッハテストのコーディング方法を学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H
	第11回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(4) 【計画内容】主に包括システムによるロールシャッハテストの解釈戦略を学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H
	第12回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(5) 【計画内容】ロールシャッハテスト施行のロールプレイを行い、データの整理方法を実践的に学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H、N
	第13回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(6) 【計画内容】ロールシャッハテスト施行のロールプレイを行い、コーディング方法を実践的に学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H、N
	第14回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(7) 【計画内容】ロールシャッハテスト施行のロールプレイを行い、解釈戦略を実践的に学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H、N
	第15回	【テーマ】ロールシャッハテストについて(8) 【計画内容】ロールシャッハテスト施行のロールプレイを行い、所見レポートの作成を実践的に学ぶ。(入江智也) 【準備学習の内容】テキストを熟読し、疑問点についてまとめておく。	B、H、N

テキスト	ジョン・E.　エクスナー、2009年、『ロールシャッハ・テスト―包括システムの基礎と解釈の原理』、金剛出版、4772410821
参考書	講義時に適宜紹介します。

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足						

質問への対応	初回講義時に指示します。
資格	[臨]臨床心理士_必修
その他	本講義を通して、心理検査の習熟はもちろん、臨床現場でも実際に心理検査を施行できるための基礎的素養を身につけることを目指すので、意欲的に取り組んでもらいたい。

科目名	心理学特別演習	授業形態	演習	単位数	4
教員名	小坂　守孝、飯田　昭人、入江　智也、風間　雅江、佐藤　至英、澤　聡一、新川　貴紀、村瀬　嘉代子				

授業の目的	ねらい	心理学に関するさまざまな研究領域について幅広い知識を培うため、心理学系専任教員全員がそれぞれの専門分野に関する内外の研究知見を紹介し、文献講読を通してディスカッションを行う。受講生それぞれの修士論文研究計画に関する中間発表を行う。さらに、2年次生の研究計画ならびに中間発表を聴き、質問や意見を発表する。
	到達目標	(1)心理学に関するさまざまな研究領域について幅広い知識を得る。 (2)修士論文研究計画の中間発表にて議論に参加し、その知見を自分の研究計画に活用する。 (3)修士論文研究計画の構想発表を行う。 (4)リサーチを学ぶ。

授業の計画	第1回	【テーマ】ガイダンス 【計画内容】原則として、各担当教員が一コマの演習を担当し、その他の回は研究計画および中間発表として、全教員が参加して演習を行うこと等について説明する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】何を学ぶか、何を研究するか、問題意識を明確にする。	B	第16回	【テーマ】修士論文研究計画の構想発表(1回目) 【計画内容】研究の方法、分析の方法等について、検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、F、G、L
	第2回	【テーマ】精神分析学 【計画内容】精神分析学の基礎的文献を取り上げ、講読する。(澤聡一) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第17回	【テーマ】修士論文研究計画の構想発表(1回目) 【計画内容】研究の方法、分析の方法等について、検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、F、G、L
	第3回	【テーマ】高次脳機能障害 【計画内容】高次脳機能障害への臨床心理学的アプローチに関する文献を取り上げ、講読する。(風間雅江) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第18回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、2回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第4回	【テーマ】統合的心理療法 【計画内容】統合的心理療法の基礎的文献を取り上げ、講読する。(村瀬嘉代子) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第19回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、2回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第5回	【テーマ】犯罪心理学 【計画内容】犯罪心理学の基礎的文献を取り上げ、講読する。(飯田昭人) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第20回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、2回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第6回	【テーマ】発達臨床 【計画内容】発達臨床の基礎的文献を取り上げ、講読する。(新川貴紀) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第21回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、2回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第7回	【テーマ】福祉領域における心理臨床 【計画内容】福祉領域における心理臨床の実践に関する文献を取り上げ、講読する。(佐藤至英) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第22回	【テーマ】修士論文研究計画の中間発表(2回目) 【計画内容】これまで受けたコメントをもとに、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第8回	【テーマ】認知行動療法 【計画内容】認知行動療法の基礎的文献を取り上げ、講読する。(入江智也) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第23回	【テーマ】修士論文研究計画の中間発表(2回目) 【計画内容】これまで受けたコメントをもとに、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第9回	【テーマ】コミュニティ心理学 【計画内容】コミュニティ心理学の基礎的文献を取り上げ、講読する。(小坂守孝) 【準備学習の内容】基礎的文献を事前に読み、何がわからないのかを明確にする。	B、G、H	第24回	【テーマ】修士論文研究計画の中間発表(2回目) 【計画内容】これまで受けたコメントをもとに、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第10回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、1回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L	第25回	【テーマ】修士論文研究計画の中間発表(2回目) 【計画内容】これまで受けたコメントをもとに、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L
	第11回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、1回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L	第26回	【テーマ】学外研修会への参加(1) 【計画内容】臨床心理センター主催の心理臨床講演会その他、学外での研修会への参加を通して、研究についての新たな視点や学術情報を得て、自身の研究と実践に活かす。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】研修会内容に関連した文献学習。	B、G、L
	第12回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、1回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L	第27回	【テーマ】学外研修会への参加(2) 【計画内容】臨床心理センター主催の心理臨床講演会その他、学外での研修会への参加を通して、研究についての新たな視点や学術情報を得て、自身の研究と実践に活かす。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】研修会内容に関連した文献学習。	B、G、L
	第13回	【テーマ】修士論文研究の中間発表(M2、1回目) 【計画内容】M2の発表・議論に参加し、自らの修士論文における研究の方法、分析の方法等について検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、G、L	第28回	【テーマ】学外研修会への参加(3) 【計画内容】臨床心理センター主催の心理臨床講演会その他、学外での研修会への参加を通して、研究についての新たな視点や学術情報を得て、自身の研究と実践に活かす。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】研修会内容に関連した文献学習。	B、G、L
	第14回	【テーマ】修士論文研究計画の構想発表(1回目) 【計画内容】研究の方法、分析の方法等について、検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、F、G、L	第29回	【テーマ】学外研修会への参加(4) 【計画内容】臨床心理センター主催の心理臨床講演会その他、学外での研修会への参加を通して、研究についての新たな視点や学術情報を得て、自身の研究と実践に活かす。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】研修会内容に関連した文献学習。	B、G、L
	第15回	【テーマ】修士論文研究計画の構想発表(1回目) 【計画内容】研究の方法、分析の方法等について、検討する。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】発表の準備。	B、F、G、L	第30回	【テーマ】まとめとふりかえり 【計画内容】1年間を通して、精査・検討してきた研究計画や調査その他の実践をふりかえり、来年度の研究進展にむけて建設的な討論を行う。(小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・佐藤至英・澤聡一・新川貴紀) 【準備学習の内容】通年の学習をふりかえり、習得した事項を整理する。	B、G、L

テキスト	適宜指示します
参考書	適宜紹介します

成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
配分			70%		30%	
補足			発表レポート		発表	

質問への対応	各担当教員が対応します。
資格	[臨]臨床心理士_選必
その他	

科目名	臨床心理基礎実習	授業形態	実習	単位数	2
教員名	新川　貴紀、飯田　昭人、入江　智也、風間　雅江、小坂　守孝、澤　聡一				
授業の目的	ねらい	本実習では、心理臨床活動を行う上で必要な、基礎的な態度、技法を修得するとともに、心理臨床の現場における参加観察を通して、心理臨床の実際を体験する。学内における事前指導および事後指導の時間では、ロールプレイによる面接や、いくつかの心理療法の実習を行う。施設での現場実習としては、学外実習機関として適応指導教室、学内実習施設として本学大学院臨床心理センターにおいて心理的支援の実践活動を行う。さらに心理臨床活動に関して、起きている事象の考察や、行動の振り返りが的確にできる視点を養う。ケースカンファレンスに参加および、自らの実習に関して実習報告会で発表を行う。				
	到達目標	(1)心理臨床活動を行う上で、臨床家としての初歩的な態度、技法について再確認し、それらについて自分自身の達成度を適切に評価できるようになる。 (2)臨床現場での体験を、率直に体感できること、また、それを的確に言語化・表記できることを目指す。			
授業の計画	【計画内容】 開講が通年であり、学内外における実施内容が多様なため、以下にその流れを示す。 【概要】 現場実習に携わる準備として、ロールプレイを用いた面接練習、SST、CBT等の学内指導を行う。現場における通年の実習としては、学外の実習機関(適応指導教室)および本学大学院臨床心理センター(以下、センター)における心理臨床の実践活動に、陪席もしくは補助的に参加するというかたちで実習体験を積み重ねる。実習回ごとの担当教員および実習指導者による個別指導の他に、事後指導として、実習報告会およびケースカンファレンスを開催し、体験を振り返る機会を設ける。また、実習体験の発表の方法、スーパーバイズの受け方も習得する。 【前学期】 ロールプレイによる実技指導を18時間(3時間×6回)行う(全教員担当)。そのうち6時間は2年次生との合同で行う。次に、インテーク実習を12時間(3時間×4回)（小坂守孝担当)、SSTおよびCBT実習を12時間(3時間×4回)（入江智也担当)行った後、後学期実習のための事前指導を3時間行い(全教員担当)、合計45時間の実習とする。 【後学期】 センター(全教員担当)および学外実習機関の適応指導教室(澤聡一・入江智也担当)において実習を行う。センターでの実習は、実習に適切と思われる来談者の来談に応じ、インテークまたは継続面接等への陪席を行う。また、学外実習は計30時間としている。さらに、実習終了後に事後指導として実習体験の発表報告会を6時間行い(全教員)、2年次生のケースカンファレンス(3時間×3回)に参加する(全教員)。 実習総時間は、基準では前・後学期それぞれ45時間、計90時間であるが、基準時間を上回って行われることがある。実習は、時間割に提示された時間以外にも集中で行われる。 【準備学習の内容】 [学内授業時]：事前にテーマの基礎知識を予習し(例：ロールプレイを行う留意点)、発表担当の場合には必要なレジュメを作成し、意味ある発表となるよう充分に遂行すること。 [臨床実習時]：実習場面に臨む前に、暗い円とや実習先に関する必要範囲の情報を収集し、理解を深めておくこと。ただし、知識や情報に偏重せず、現場指導者・学内指導教員のオリエンテーションを良く受け、真摯な姿勢で臨むよう注意すること。 【事後学習の内容】 全ての実習回について、実習日誌を作成しふり返りを丁寧に行う。				A、D、G、H、J、N A、D、G、H、J、N
テキスト	オリエンテーション時に、実習に関する要綱を配付します。また指導内容に応じて資料を配付します。				
参考書	指導内容、学習項目に則して、授業時に文献を紹介します。				

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		30%	10%
	補足			報告書等。所定の用紙あり			実習日誌綴

質問への対応	内容に応じて、直接面談、電話、メール等で対応します。 オリエンテーションならびに初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]臨床心理士_必修
その他	学外での実習日程は、実習機関との調整によって決定します。

科目名	心理実践実習Ⅰ	授業形態	実習	単位数	4
教員名	風間　雅江、飯田　昭人、小坂　守孝、佐藤　至英、澤　聡一、新川　貴紀				
授業の目的	ねらい	本実習では、心理に関する支援を必要とする人に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識とスキルを習得することをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人の理解とニーズの把握および支援計画の作成についても実践的に学ぶ。学内外の実習機関において、教員や学外実習指導者の指導のもと、直接、心理的支援の対象者への心理臨床活動を体験的に学ぶなかで、チームアプローチ、多職種連携、地域連携、心理職としての職業倫理および法的義務についての理解を深める。				
	到達目標	(1)臨床心理学的アプローチとしてのコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等についての知識とスキルを習得し、適切に心理臨床活動の実践に応用する。 (2)心理的支援を必要とする人のニーズを把握し、支援の方針ならびに計画をたてる能力を身につける。 (3)心理職臨床の現場で不可欠な観点である、チームアプローチ、多職種連携および地域連携について体験的に理解する。 (4)心理職としての職業倫理および法的義務について理解する。 (5)臨床現場での体験を通して、心理的支援を必要とする人にとって何が求められるのか、心理職として果たすべき役割が何であるかを再考する。				
授業の計画	【計画内容】 学外実習機関として、精神科病院、児童養護施設、少年鑑別所、少年院の4施設、学内実習機関として、本学臨床心理センターにおいて、心理臨床活動の実践、陪席、見学等を通して体験的に心理的支援の実際を学ぶ。学内外の実習機関の担当ケースに関する実習を通して、さまざまな臨床心理学的アプローチにおけるコミュニケーションのスキルと心理療法の実践スキルを習得し、チームアプローチ、多職種連携、心理職としての職業倫理および法的義務についての理解を深める。主に本学臨床心理センターの実習を通して、心理検査ならびに地域支援の実践について体験的に学ぶ。学外施設実習では、施設の実習指導者による指導の他に、担当教員が巡回指導を行う。実習は配付する実習指導手引きに則して進められ、実習生は各回の実習記録を所定の用紙に記載し、指示されたかたちでファイルを作成し提出し、事後指導に用いると共に実習体験の深化をめざす。各実習機関の領域、施設種、実習時間、担当者を以下に示す。 ＜保健医療領域＞　（飯田昭人担当） 精神科病院において15時間、担当ケースに関する実習を行う。 ＜福祉領域＞　（新川貴紀担当） 児童養護施設において15時間、担当ケースに関する実習を行う。 ＜司法・犯罪領域＞　（佐藤至英担当） 少年鑑別所および少年院においてそれぞれ3時間、計6時間（3時間×2施設）、見学ならびに講話を主とした実習を行う。 ＜大学相談機関＞　（全教員担当） 本学臨床心理センターにおいて、複数の担当ケースに関する実習、事前事後指導、ケース記録の作成、受付対応実習、受理会議参加（100時間）、実習報告会、ケースカンファレンスへの参加ならびに発表（14時間）、総計114時間を行う。 実習時間総計150時間を設定しているが、この時間を上回って行われることがある。学外施設での実習時間は本実習科目で36時間、担当ケースに関する実習時間は130時間となっている。なお、2年次の「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」では、学外実習は保健医療領域の精神科等の病院において60時間、本学臨床心理センターでは240時間の実習を行うため、本実習では、その前段として心理臨床の基礎的素養を確かなものにすることをめざす。 【準備学習の内容】 実習施設の領域ならびに実習施設の特徴、想定される対象について、情報を収集し、これまで学んだ知識を整理しておくこと。 【事後学習の内容】 全ての実習回について、実習日誌を作成し、ふり返りを丁寧に行う。				A、D、G、H、J、N
テキスト	オリエンテーション時に、実習に関する要綱を配付します。また指導内容に応じて追加資料を配付します。				
参考書	指導内容、学習項目に則して、授業時に文献を紹介します。				

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		30%	10%
	補足			所定の用紙あり			実習日誌綴

質問への対応	内容に応じて、直接面談、電話、メール等で対応します。 初回講義時に具体的に説明します。
資格	[臨]公認心理師_必修
その他	実習日程は、各実習施設により異なります。 詳細決定後、各担当教員と具体的な打合せを行います。

科目名	修士論文指導Ⅰ	授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員				
授業の目的 ねらい	修士論文作成に向けてのファーストステップとして、先行研究の文献調査による精査を通して、多くの論文を熟読し、これまで明らかにされた知見や未解明の課題について整理する。文献詳読の際には、クリティカルリーディングを念頭におき、問題意識を明確にしながら、自分自身の研究テーマを設定する。さらに、研究のテーマおよび目的にみあった研究手法を検討し、研究計画を立案する。				
授業の目的 到達目標	(1)先行研究を整理する。 (2)研究テーマを設定する。 (3)研究計画を立案する。				

授業の計画	
【テーマ】 第1回：ガイダンス：修士論文とは何か	
第2回～第4回：先行研究を探す	
第5回～第7回：研究テーマを決める	
第8回～第13回：研究計画を立てる	
第14回～第15回：データの収集	
【計画内容】 第1回：修士論文作成のための手順、ポイントを概説する。	A、B、G
第2回～第4回：何を書くか、各自、研究テーマを設定する。	A、B、G
第5回～第7回：研究テーマを発表する。	A、B、F、G
第8回～第13回：修士論文作成プランを発表する。	A、B、F、G
第14回～第15回：データ収集のための準備を行う。	A、B、G
【準備学習の内容】 第1回：次回までに大まかなプランを作成する。	
第2回～第4回：先行研究を収集し、何が明らかになっているのか、何が残された課題かを考える。	
第5回～第7回：先行研究、具体的方法までも含めて、レポートを作成する。	
第8回～第13回：研究のアウトラインを設定する。データをどのように集めるかを考える。	
第14回～第15回：質問紙の作成、調査依頼等を検討する。	

テキスト	各担当教員より適宜指示します
参考書	各担当教員より適宜紹介します

成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			40%		60%	
	補足			レポート		毎回の発表	

質問への対応	各担当教員より説明します。
資格	
その他	

講義要綱

SYLLABUS

北翔大学大学院

2019年 4 月　発行

北翔大学・北翔大学短期大学部

〒069-8511　江別市文京台23番地

TEL（011）386－8011

FAX（011）387－1542

講義要綱　SYLLABUS

北翔大学大学院

2019